



精神症状 記憶の障害

記録・保持・想起に分けて覚える。

記録：新たに知覚し、体験したことを記憶の中に取り入れること

保持：記録したことを保ち続けること

想起：保持したものを思い出すこと

再認：想起されたものが記録されたものと同じであると確認すること

記録障害：特に認知症（外因性で認める。アルツハイマー病等では重度）でよく見られる。新しいことは記録できないが、古い出来事は思い出せる

想起障害（健忘）：全健忘（ある期間すべて）と部分健忘（ある期間でも部分的には可能）、逆向健忘（障害時点より以前のことを忘れる）と前向健忘（意識回復後のことを忘れる）

見当識障害

見当識：時間、場所、人、状況などに対する見当づけを行う能力の障害

精神症状 知能の障害

精神遅滞（知的障害）：以下の3点を特徴とする。1つの疾患単位ではない。

- ・先天的あるいは精神発達途上の早期に、何らかの原因で精神発達が妨げられた
- ・知的機能が平均より低い
- ・社会適応が困難

→代表的疾患：染色体異常（ダウン症等）、代謝異常（フェニルケトン尿症等）、胎生期異常

認知症：獲得された知能が何らかの原因によって非可逆的に低下した状態。

→代表的疾患：アルツハイマー型認知症、脳血管障害、レビー小体型認知症、ピック病、パーキンソン病（固縮）、進行麻痺

